

# 平成18年度観光実践講座 講義録

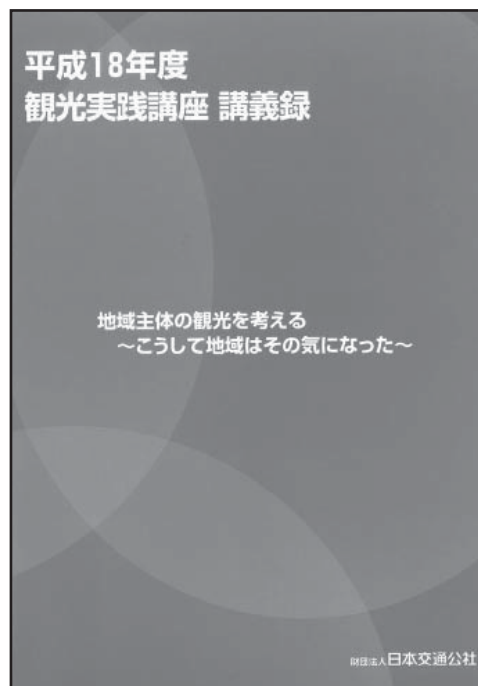
## 「地域主体の観光を考える～こうして地域はその気になった」

当財団主催の観光実践講座から、初めての講義録出版。旅行者にとって「観光」の意味は変化し、地域の暮らしや生活、景観に興味を持つ人が増えている。一方、地域の自治体や住民にとっても、住みよい快適な地域づくりと観光の関係の深さや可能性が重要になってきた。「観光」はすでに観光事業者だけが取り組む課題ではなくなっている。

そこで平成18年度の観光実践講座では、2日間の共通テーマを「地域主体の観光を考える～こうして地域はその気になった」とし、各地の講師から実践的に学んだ。

参加者からのご好評に応え講義内容を再現、地域振興に関わる多くの方々にその具体的な内容を伝えるべく発刊に至った。

- 担当者 久保田美穂子・中野彩香・丸山のどか
- 頒布料 3,150円（本体3,000円）



A4判 89ページ

### 目次

**講義1：地域主体の観光の時代**  
～変わるゲストとホストと地域の関係  
(財)日本交通公社 理事 小林英俊

**講義2：結束力ある温泉地の挑戦**  
～地域の商品化に取り組む  
岳温泉観光協会 会長 鈴木安一氏

**講義3：私の考える「着地型」**  
～えひめ町並博2004からの展開  
(株)おおず街なか再生館  
代表取締役専務 河野達郎氏

**講義4：データで確認 旅行者の気持ち**  
(財)日本交通公社  
主任研究員 久保田美穂子

**講義5：都市と農村の「ほんもの」の交流事業**  
～地域自立戦略の実践  
飯田市産業経済部担当企画幹 井上弘司氏

**講義6：生産者をマーケットター&経営者に育てた**  
しくみづくり  
(株)内子フレッシュパークからり  
特産開発部部长 山本真二氏

**講義7：地域が主役の観光政策**  
～観光で地域は自立できるか  
釧路公立大学教授 地域経済センター長  
小磯修二氏

※講師の所属・役職は講座開催時点(06年11月)のものです。